



国際ロータリー第2600地区 上田六文銭ロータリークラブ

2019-20年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー氏
第2600地区ガバナー 古川 静男

- 会長 宮澤 広一 ●幹事 北村 久文
- 会報委員長 西澤 文登 ●副委員長 松澤 一志
- 委員 宮原 宏一 合原 亮一



ロータリーは
世界をつなぐ
Rotary Connects The World

【事務局】
〒386-0025 長野県上田市天神4-24-1
上田東急REIホテル 3F
TEL.0268-25-6000 FAX.0268-25-6002
http://www6.ueda.ne.jp/~ueda6rc/

【例会日】毎週火曜日12:30~13:30
【例会場】上田東急REIホテル 2F
【創 立】1997年2月18日



ゲストスピーチ

地区補助金事業について

チャイルドラインうえだ
運営委員会委員長
事務局次長

小林 彰様
茅野 浩恵様



小林 彰様



茅野 浩恵様

～中澤 R 財団委員長より今年度地区補助金事業についての説明の後、小林運営委員長様からチャイルドラインの概要と茅野事務局次長様からはチャイルドラインの現状についてお話いただきました。～



■7月28日 R 財団地区補助金説明会報告

1. 2年前 R 財団 100 周年にあたり寄付額が多かったため、寄付額の多かったクラブに対して当初予算時よりも 1.25 倍多く補助金を支給していただいたため、自己負担額が少なく済むことになりました。(為替変動のため若干の差異あり)
計画時での試算ではクラブ負担が 30%以上でしたが、この対応により今年度は 30%未満でも良いとの地区方針がなされています。
2. 継続的事業の実施について

従来、地区補助金の対象事業として、「継続的事業の実施」は対象外とされてきました。この解釈が曖昧であり、毎年新たな事業を生み出すことが難しい等の理由から、事業内容の若干変更や支援先を変更することにおいて認可されてきましたが、今後はルールが明確になりました。(R 財団マニュアル 20190708 ver. 10 8P)

「事業そのものが継続的なものであった場合には、初回事業年度のみ地区補助金の申請が可能となるが、内容に応じて3年を限度に補助金申請ができる。継続的な事業であっても最終受益者が異なる場合には引き続き申請することができる」
ちなみに当クラブの事業は、前年度の子ども食堂支援と今年度のチャイルドラインうえだへの支援は「新規性が無いもしくは継続事業」とみられたようで、今年度特例の 20,000 円補助額増額の対象外になっていました。

■チャイルドラインうえだ 支援事業経過報告
今年の4月～現在まで、チャイルドラインうえだの定例運営会議への参加も含み計7回の打ち合わせ・ワークショップに参加しております。
支援先のチャイルドラインうえだから内容変更の相談がありました。地区 R 財団へ確認したところ、変更の手続きをとれば差し支えないとのことで、希望のとおりに変更して対応しています。
変更点は以下の通り

1. 募金箱 紙製 250 個の募金箱からアクリル製 50 個に変更
 2. 南京錠 50 個の追加購入
 3. パネル製作 4点→3点にし、内容物更新のためパネルのフレームのみ1点希望
- 現在、配布した内容でチャイルドラインうえだの運営委員のみなさまに内容の了解をいただいたところです。
これで製品に仕上げてまいります。





■今後の展開

1. 本日発表していただきます、本年度のチャイルドラインうえだの事業に参加協力
10月13日 13時～ 第一回受け手養成講座で贈呈式(13時前) 於 上田市健康プラザ

東信第二グループ内の各クラブへ日程調整後訪問し、チャイルドラインうえだの活動を紹介し、活動資金集めの募金活動を行います。予定が決まり次第ご案内します。

000 会長挨拶

終戦記念日と台湾

会長 宮澤 広一君



皆様 こんにちは

8月2日の夜間例会以来の例会です。18日間例会がないと随分と長い間例会がなかったように感じます。

さて、お盆休みはいかがお過ごしでしたでしょうか？長い人は10日からお盆休みが始まり、18日まで休みですので9日間も休みだったと思います。

ちなみに、私の会社は、10日11日を出勤日として、12日から16日まで休みにしました。例年より1日長い休みとなしました。せっかくの長い休みですので普段できなくて溜まっている仕事をやっつけてしまおうと計画してはいたのですが、なかなかうまくいかないものです。お客様の突然のご要望により台湾に5日間行くことになりました。

現場の進捗状況の確認と、9月から始まる新たな現場の打ち合わせが主な仕事です。それから大切なのが日本から派遣している大工さんの慰労です。台湾で仕事をしながら感じたことは、自分を中心に考えるとお盆は休みだが、お盆が休みと言っているのは日本だけで世界はそんな関係なく動いているということです。日本から派遣している大工さんもお盆休みは関係なく働いていました。本当にありがたいことです。

さて、お盆中には8月15日の終戦記念日があります。終戦記念日です。私が終戦記念日に対し思っていることは。戦争のためになくなった方々に祈りを捧げ、二度と戦争を起こさないためにそれぞれが考える日だと思っています。

この、8月15日に台湾で何が行われているか紹

介します。

2019年8月15日は新しい元号「令和」初の終戦記念日です。終戦から74回目の8月15日。とりわけ8月に入ると日本では、広島と長崎の原爆記念日、そして終戦記念日とあるので、日本のテレビでは今年なら終戦から74年といったあの戦争を忘れないための特番が放送される。新聞も同様です。台湾では類似の報道を見かけることはない。たとえば、今年8月8日には台湾北東部を震源とする地震があり、その日から8月9日にかけては台風9号が通過した関係で、関連情報が一気に増えたものの、台湾のテレビは基本的に来年の台湾総統選挙に向けた報道一色である。総じていうなら、8月15日は日本人にとって特別な日ではあっても、一般の台湾人にとっては普通の日には過ぎない。たとえば韓国では「光復節」として位置づけられているのとはちょっと違っている。「光復節」を辞書で引くと、「朝鮮が日本の植民地支配から解放された1945年8月15日を記念する祝日。〈光復〉とは失われた祖国と主権の回復をいう。だがそれは同時に〈民族分断〉という新たな受難の始まりでもあり、〈分断時代〉と呼ばれる朝鮮現代史の原点としての意味も持つ。なお8月15日は北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)では〈解放記念日〉として祝日になっている」などと説明されている

終戦前後の台湾で起きていたこと

主戦前後の台湾の状況をまとめた「台湾総督府残務整理事務所」がある。「台湾総督府残務整理事務所」という1946年から1952年度末までのわずかな間設置された部署の報告書である。名前の通り、残務整理を担う部署で、主には引揚職員の人事、会計、一般引揚者の証明などを担当していた。報告書は「我が国の台湾統治終局につきまして、顛末をご報告申し上げますことは、実に感慨無量の至りに存じますが、(1946年)4月下旬、在台40余万の軍官民の引き揚げ還送が完了いたしました」という一文で始まる(カッコ内は筆者補足。現代表記に改めた。以下同)。そして、終戦直前から日本人引き揚げ完了までのおおよそ1年弱の経過をわずか22ページ、すべて手書きでまとめている。文書内に収められたこの間の主な動きを抜粋してみよう。

- 1945年8月15日 終戦の大詔
- 1945年9月9日 中国戦区受降調印式
- 1945年10月5日 台湾省行政長官公署警備総司令部前進指揮所設置



1945年10月24日 陳儀長官兼警備總司令官が台湾に着任
 1945年10月25日 台湾地區受降式
 1945年11月1日 行政司法部門の接收開始
 1945年11月8日 地方庁の接收開始
 1945年12月 学校その他諸機関接收開始
 1946年2月 在台日本人の集団還送開始
 1946年3月下旬 日本籍職員教官民7,000人、家族含め28,000人の残留を決定

1945年、台湾は戦場化必至と見られていたため、飛行場の増設、築城陣地構築などの迎撃体制が強化され、各種軍需資材や生活必需品の島内自給を図り、学徒兵招集もその一環として行われた。ところが8月15日に昭和天皇からラジオを通じて台湾全土に終戦の大詔が伝えられると、台湾に暮らす人々には一様に動揺が走った。終戦直後の時点では、在台日本人は台湾に残留を希望する人が多かったという。50年に渡る台湾統治の間に、台湾は紛れもなく故郷となっていたし、生活基盤のすべてが台湾にあったためだ。仮に50歳の方がいきなり行ったことさえない場所に転居を迫られたら……その混乱は想像に難くないはずだ。

9月に入り、9日に行われた中国戦区の調印式で、台湾の中華民国復帰が現実となってからは、台湾人による地方官に対する暴行、コメの供出拒否などが起きる。そして、行政公署が設置されると日本の行政執行が弱まり、治安の混乱、物価の急激な高騰など、社会不安が蔓延した。一方、総督府としては中華民国側へ接收に向けて50年の台湾統治を「有終の美」で終わらせるよう目指していたが、実際にはほど遠い状況にあったと嘆き節に近い文言も見られる。また一連の接收業務を行う中で、「（中華民国側が）専ら物的接收に重きを置き、懸案事項、緊急要務等重要なる行政事務の引き継ぎにはほとんど関心を示さぬことは、日本側の意外とするところ」であった、とある種の懸念も示されている。この報告書の出された約1年後、大量の台湾人が体制側に殺される「二二八事件」が起き、白色テロへとつながっていくわけだが、その火種はすでにこの頃にあったことが読みとれる。

73年前から送られたメッセージ。

1940年の統計によれば、当時、台湾の全人口は約600万人。彼らはすべて「日本人」だった。

終戦によってその関係は突如として変わることになり、1946年に約40万人が日本へと向かった。この急激な変化を、台湾の人たちはどう受け止めていたのか。報告書には、こんな指摘がある。――ひとたび中国復帰明らかとなり、中国側の解放光復の宣伝展開せられまするや（略）急激に日本より離反するに至るを目の当たりに見、在留日本人は等しく異民族統治の困難を今さらながら索然として痛感いたした次第であります。

一気に中華民国へ復帰する機運が高まった理由を、よくよく考える必要がある。本報告書に記載のない事項として付け加えておくと、統治時代には幾度となく抗日事件が起き、そのたびに多くの台湾人が殺されてきた。第二次大戦中、1944年10月から1945年8月10日まで何度も空襲を受けて5,582の方が亡くなった。また台湾から徴兵されて戦地へ向かった人の数も20万人を超える、とされている。

報告書は、次のように結ばれていた。

――最後に台湾は日本の版図より離脱いたしましたのでありますが、半世紀にわたる日本との関係は急激に切断し得るものではなく、文化、産業、経済の各部門に渡り今後においても日本との連携を要するもの少なからず存するものと思料せられます。日本といたしましても、今後なお、台湾に対する関心を失わず、交易、文化交流等の平和的方法により互助互恵の関係を維持し、国運再建の一助とし、あわせて日華提携に寄与するところあらんことを衷心念願してやまぬ次第であります。

報告書作成から73年が過ぎた。この間、日本は1972年に台湾との外交関係を失い、正式な国交関係は今もない。教科書には日本が台湾を統治していた事実さえ明確な記述がないため、50年もの間、日本が台湾にしてきたことを振り返る手立てなど、なきに等しい。先の戦争への反省として、日本の受けた被害だけではなく、植民地の人たちをも巻き込んでいたことを決して忘れてはならない。今日は、終戦記念の日なのだから

幹事報告



幹事
北村 久文君



1. RI より
 ・第15回ロータリー日韓親善会議のご案内

提供者 齊藤恵理子君 土産

恵送

1. 丸子、上田東、東御、桐生赤城、小諸、
 小諸浅間各 RC 様・会報



山崎 芳雄君

全会員配布物

1. 当クラブ会報 1032号
 2. ロータリーの友8月号

提供者 宮澤会長 台湾土産

パイナップルケーキ他



横沢 正君 吉田 穰君

出席・ニコニコBOX報告

吉田 穰君

	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	22	2	0	90.91%
前々回	23	4	2	91.30%

- 宮澤広一君 暑いし、雨は降るし不安定な天気です。健康に注意しましょう。
 水野泰雄君 お久しぶりです。先般桐生赤城 RC にご挨拶に行ってきました。群馬が最高に暑かった日です。
 中澤信敏君 チャイルドラインうえだの皆様本日はよろしくお願いたします。
 生川秀樹君 8/2 のワイン例会夫婦共々楽しんでいただきました。親睦委員会の皆様、ありがとうございます。
 西澤尚夫君 長い盆休み、山に高原に、サッカー観戦と多彩に過ごしました。

8月10日(土)上田ローターアクト主催『上田駅前ガム取り例会』に当クラブから社会奉仕委員長 飯島伴典君、松澤ガバナー補佐様、西澤補佐幹事様が参加しました。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 肥田野秀知君 | 笠原 一洋君 | 柄澤 堯君 |
| 北村 久文君 | 小嶋 修一君 | 松澤 一志君 |
| 宮原 宏一君 | 西澤 文登君 | 齊藤恵理子君 |
| 杉山 裕君 | 山崎 芳雄君 | 横沢 正君 |
| 飯島 伴典君 | 吉田 穰君 | 合原 亮一君 |



例会日報

- 司 会 宮原 宏一君
 □開会点鐘 宮澤 広一君
 □斉 唱 上田六文銭 RC の歌
 □ゲスト
 チャイルドラインうえだ
 運営委員会委員長 小林 彰様
 事務局次長 茅野 浩恵様
 □ラッキー賞
 提供者 桐生赤城 RC 様(水野君小嶋君訪問の際)

ひもかわうどん
 杉山 裕君
 柄澤 堯君
 西澤 尚夫君

